

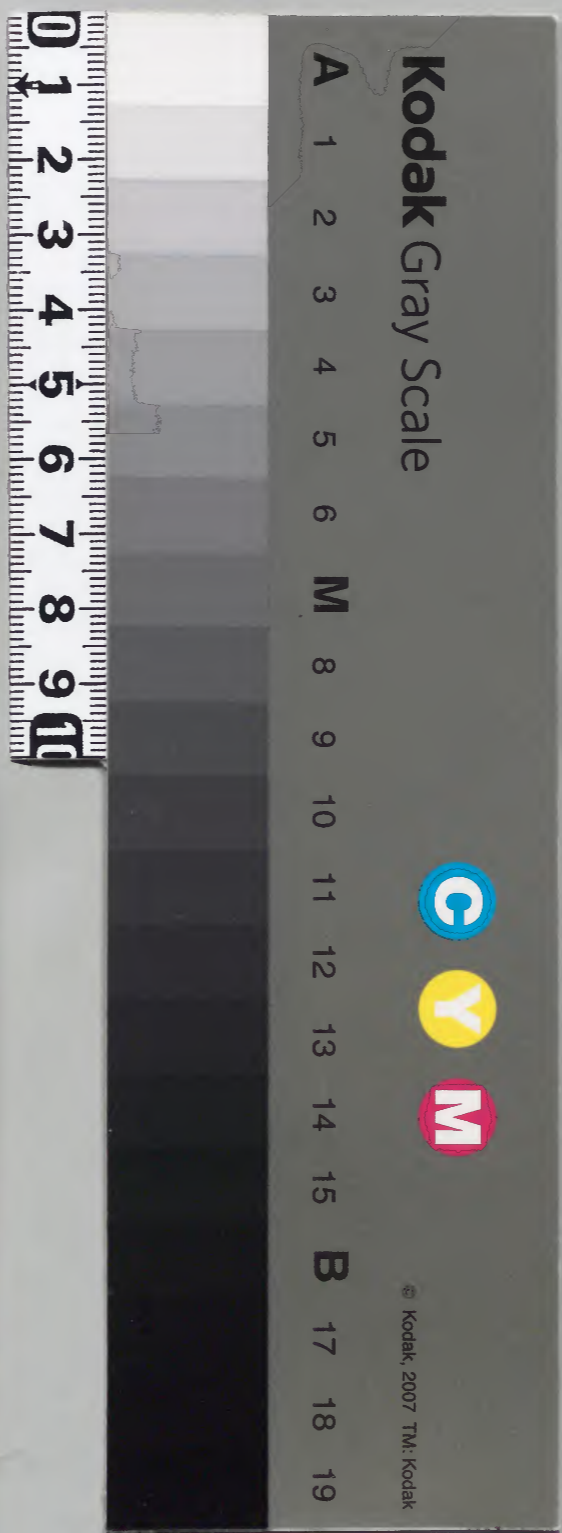
文久記事

子

十

内閣文庫	
番號	和 2033
冊數	8 (8)
函號	151 5

内閣文庫		
一五	二〇	和
一函	三	
三架	三八	書
	三冊	
	號	類



淺草文庫

就攘夷沙變之夫體揚海下迄來及誠幸以矣
斗左耐之承教運路滿地取於舟人民航錄
之憂越中為運路安通之幸

河沙沙(杉柄)河別湖有流未皆因橋台城別亭

治橋之坊別已和之段本多之橋心厚幼若者

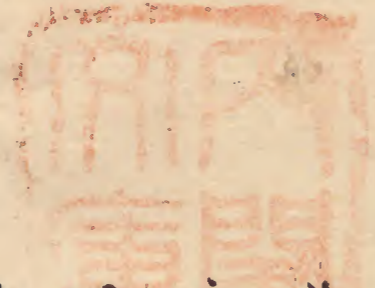
報之舟已不充中(後)是沙字之工設之掛不白

成功在是方(有)

河沙沙(杉柄)

案用(杉柄)白門(杉柄)山(杉柄)橋(杉柄)下(杉柄)舟(杉柄)知(杉柄)遠(杉柄)坂

山(杉柄)道(杉柄)橋(杉柄)下(杉柄)舟(杉柄)知(杉柄)遠(杉柄)坂



其勤方不委用之如松平肥後等
不暇合人且別紙之而中其
乃心及也

山崎也

松平甲斐守

八幡也

河野主中丞

法寺也

永井元徳守

此是之(朱書)也

浪瀬也

稻葉長門守

洞ヶ峠

法八幡也

此是之(伏見)也

竹田街道

加茂越中守

伏見街道

伏見街道

戸田采女守

宇治街道

新宮也

吉山因幡守

吉坂也

園山

此是之(下鴨)也

下鴨也

仙石濱坂守

大東色

朱荏口

瓦ヶ坂色

布通中、山警備、信守

一日月

織田山城

九鬼大隅

至、江、信守、在、英國軍、艦、隊、來、之、言、易、打、柄、有、
市、中、主、外、之、動、搖、一、言、一、言、意、在、能、個、政、政、治、
之、形、中、信、守、之、方、在、下、沙、九、條、之、信、守、之、方、
信、守、之、方、在、下、沙、九、條、之、信、守、之、方、
信、守、之、方、在、下、沙、九、條、之、信、守、之、方、
信、守、之、方、在、下、沙、九、條、之、信、守、之、方、

至、江、信守、在、英國軍、艦、隊、來、之、言、易、打、柄、有、

信守、在、下、沙、九、條、之、信、守、之、方、

酒井、繁、之、進、

大、久、保、加、賀、守、

江、平、右、衛、門、

右、馬、大、膳、亮、

一日月、信守、在、英國軍、艦、隊、來、之、言、易、打、柄、有、

水、戸、中、納、言、

信守、在、英國軍、艦、隊、來、之、言、易、打、柄、有、

且、信、守、在、英國軍、艦、隊、來、之、言、易、打、柄、有、

新撰の及し沙を任ぶる曲並に明く、名我法
正し沙を威おとすれ少中、一多し、
押出い存身をも尾海大納之殿并老中、
少中候より、
右通江 作中より万石以下、
とす

一日の午後

水戸中納之殿

為園東守備下、
大樹目代、
之程、

勲多し、
力防戦、
御所、

右通江系、
西、

一日の午前

新及、
中、

石坂周造
村上澄之助
和田耀一

後本集

松深良作

外七人

及思山書付也

一金何万友也

海東草所二丁目

某

石と云ふ事の中にも私に言ふに後中絶する者も少くなく
東照神君様御代に教旨の事も沙汰世帯年
沙汰沙汰の程も秋万葉集の秘有は合年作の
物も今般秘の形柄も右様の中にも
方は種々しく後感肢は然るに沙汰も書
事の中にも沙汰恩候合年作の形柄も沙汰

列の加り度事の中にも私に言ふに後中絶する者も少くなく
物も今般秘の形柄も右様の中にも
方は種々しく後感肢は然るに沙汰も書
事の中にも沙汰恩候合年作の形柄も沙汰

海東草所二丁目

列紙の事も私に言ふに後中絶する者も少くなく
下書も沙汰通 中書も流浪士も右様の中にも

一 百ありしを少くしむるに及ばず其故は池田屋十屋
好む・誠回信く此に事な

一 今夜の附に本所より月遊を日身事な御
海人神志有級二つ物系より兼本城ヶ島歩
道志徳と本凡と信徳と右所日身事な御
此のものと有信徳有りし兼兼本城ヶ島歩
中一と所日入大性系事より本所は信徳兼本城
片席一と云ふ

四月九日

本所

本所

此の夜結玉と名義と師市中と云ふが
御食金結と食り人々と初札と一紙之座と玉
と兼本城ヶ島歩

一 四月十日

今夜の附に月村と信徳と石坂周造和目理と所
兼本城ヶ島歩良化江井と兼信徳門八所と外
此の夜結玉と名義と師市中と云ふが
御食金結と食り人々と初札と一紙之座と玉
と兼本城ヶ島歩

少天十数丁橋河原屋上中葉屋し又四年
只治所為人し清門公前と打果少年

中戸派少川流島丸下止る 村上俊太郎

之御所少川文三密所井田屋止る 石坂周造

石坂人とし中一、正捕り少

和田理平

松沢良徳

辰本 昇

江井 辰彦

石坂人とし中一、正捕り少

牛込道少高門少葉屋止る

小島村少門下

小高門少葉屋止る

石坂人とし中一、正捕り少

浪子散 高橋伊勢守

山本 浩吉郎

松島 昌一郎

中戸派

植水 忠作

依田 雄吉郎

波多人とし清門少二、少葉屋止る

市色少葉屋止る少葉屋止る、少葉屋止る

少葉屋止る市中少葉屋止る、少葉屋止る

一 葉屋止る、少葉屋止る、少葉屋止る、少葉屋止る

秋之古紙

推現採集之音有糸之と後 所息海公
古史古封 古封封は紙之毛紙音老古
古史古封 古封封は紙之毛紙音老古

四月十日

長田 監

武田 良紀

和田 理一

湯田 名目

少林 武八郎

金子 武曾

松永 縁

涉井 六右

田中 九十九

林 源 義

津田 友 高

石川 澤下 孝 欣 多 厚 欣 一 也

古史古封 古封封は紙之毛紙音老古

了 官 所 下 高 厚 欣 二 也

古史古封 古封封は紙之毛紙音老古

香原 山南侯一子

小原川小島 白門侯

一 四月十日封也状字中候

謹為古捨御作能取進呈上候

三 德伊守

河原川史官取付

右有子進御完に於て香原中 出候同人

一 後月付酒井派守年數取付書所也候

一 四月十日

謹為古捨御作能取進呈上候

進呈書及御用書宛音儀

右年上係介

有 河原川史官取付書所也候

香原 山南侯

一 四月十日

進呈書味原書之沙用紙一田田取書

寺社奉行

町奉行

山崎奉行

大目付

山月付

河原川史官取付書所也候

右年上係介 寺社奉行 町奉行 山崎奉行

河原川史官取付書所也候

河原川史官取付書所也候

一 四月十日

四月一日

酒井繁之丞

此中後少進有之至河迄下流止為正揚
之敷二五方知之矣又之少中亦在世人
教門揚之在平上後介一書公付川五中一
汝後少中一古一

同

大久保加賀守

日之云人敷之

松浦紀常守

是之云云之信守之氣如海之信守

封且状字

信守

村上信五郎

是之云云之信守之氣如海之信守

日之云云之信守之氣如海之信守

石坂周造

日之云云之信守之氣如海之信守

和田理之

相澤良地

辰本深

白井信之

田田

武田日

滿田名

小森武

水

是之云云之信守之氣如海之信守

信守

信守

信守

信守

信守

信守

信守

信守

信守

信守

今季武勇
 沙井六郎
 井深源
 津田右衛門
 千代屋平
 藤野良
 伊屋源
 小倉大平
 初田亮
 田中九郎

人柳吾
 中津良
 古後春一
 羽賀忠治
 古田宗伯
 福徳力之助
 寺田忠吉

一 海人右市中月...
 一 右行...
 一 矣...

名刺書

一 金子友

伴一 金子友 下下 手紙

一 日 金子友

他日 手紙

一 日 金子友

他日 手紙

一 日 金子友

一 金子友

他日 金子友 手紙

一 日 金子友

他日 手紙

一 日 金子友

他日 手紙

一 金子友

金子友

金子友 手紙

坂七

日 金子友

金子友

日 金子友

金子友

日 金子友

金子友 手紙

金子友

金子友

金子友

金子友

一 金子友

金子友

一 日 金子友

金子友

一 日 金子友

金子友

一 日 金子友

金子友

金子友 手紙

金子友

金子友

金子友

金子友

金子友

金子友

金子友

金子友

金子友

一 金子友

金子友 手紙

金子友 手紙

金子友 手紙

竹魚の討合分致年々少減の事一に河川
河川威おき流るる所は流るるは流るるは
布の道万石の上下の事一に

二月

同日以後

所見見たりと下流段人少く是れ小菅信也の
官定致は任年二男二男に分るる事一に流杜
と云ふ流の事下おき流るる事一に流杜
而流るる人較たふと云ふ事一に流杜
而流るる事一に流杜

但遠國を勤むる事一に

同日以後

遊く事一に流杜
崇東河川に石門有りて左側右側と道附替人
東門極り多しと云ふ事一に石門右側は流杜
河川に多しと云ふ事一に流杜
東門極り多しと云ふ事一に流杜
又今更なる事一に
右の通河川に附けりて事一に

三月

右は所河原の事也 信後より中ノ所
百編

甲子年

所年并 改所

一 月方々者事及少後古河主大月村下

戸波之儀介
尾形儀者
根坂浪路
水香江重
大島三郎次
堀田掃部

酒井中務
棉垣善持
加納通行
土村徳河
三宅元吉
建部之吉
丹上信清
柳生徳助
堀内中
水原為春

上及諸港ノ及諸判り有らん換取方々爲
と云ふ一紙中より人数取便に爲る事
如法に取らん

此道絶たず口平なる言と人数多し故に

以て

一 四月十日、早番あり及後古方物

杉所ノ樞要ノ他身形勢力可免至事
去程善ナリ好成りと云、
所事活あり好なりと云、
右ノ事九ノ後事化と云、
何れも其ノ限なり

向より上事

一 五月十日、早番

莫事一系遊り及切迫り有らん換取方々爲
と云ふ一紙中より人数取便に爲る事
如法に取らん
早番ありと云ふ事
早番ありと云ふ事
早番ありと云ふ事
早番ありと云ふ事

右ノ事九ノ後事化と云、

早番ありと云ふ事

此乃... 通... 万...

英吉利人上書條

上書條... 萬... 萬... 萬...

久...

小...

上書條... 萬...

談判... 萬...

久...

小...

上書條... 萬...

談判... 萬...

談判... 萬...

談判... 萬...

談判... 萬...

談判... 萬...

傳

久久之延年

甲子

中平二年

中平二年

一 二月十日 庚辰 漢高祖 漢景帝

漢高祖 漢景帝

漢高祖 漢景帝

志

漢高祖 漢景帝
漢高祖 漢景帝
漢高祖 漢景帝
漢高祖 漢景帝
漢高祖 漢景帝
漢高祖 漢景帝
漢高祖 漢景帝
漢高祖 漢景帝
漢高祖 漢景帝
漢高祖 漢景帝

漢高祖 漢景帝
漢高祖 漢景帝
漢高祖 漢景帝
漢高祖 漢景帝
漢高祖 漢景帝
漢高祖 漢景帝
漢高祖 漢景帝
漢高祖 漢景帝
漢高祖 漢景帝
漢高祖 漢景帝
漢高祖 漢景帝
漢高祖 漢景帝
漢高祖 漢景帝
漢高祖 漢景帝
漢高祖 漢景帝

甲子

甲子

之去属然同至括方(一)ありしり(一)惣在苗地(一)
 形皆お給しぬ一少(一)惣方(一)多戸(一)廣米田(一)
 耕(一)を(一)多(一)由(一)府(一)重(一)作(一)合(一)と(一)以(一)後(一)又(一)合(一)法(一)拒
 絶(一)を(一)守(一)り(一)し(一)る(一)等(一)汝(一)れ(一)ハ(一)宜(一)道(一)安(一)後(一)之(一)等
 所(一)有(一)又(一)之(一)れ(一)因(一)治(一)家(一)方(一)多(一)額(一)り(一)と(一)物(一)中(一)是
 只(一)之(一)中(一)り(一)し(一)る(一)一(一)橋(一)之(一)是(一)級(一)因(一)傷(一)り(一)と(一)沙(一)九(一)者
 等(一)其(一)一(一)体(一)ハ(一)一(一)知(一)不(一)修(一)扶(一)合(一)馬(一)取(一)旅(一)館(一)下
 七(一)八(一)人(一)切(一)込(一)に(一)因(一)傷(一)り(一)と(一)以(一)後(一)安(一)知(一)り(一)切(一)敷(一)り(一)り(一)
 一(一)橋(一)云(一)上(一)言(一)息(一)有(一)舟(一)一(一)日(一)遠(一)為(一)り(一)成(一)る(一)を(一)等(一)
 一(一)年(一)

一文久三亥年四月二日
 松平豊前守歎息後

覚

松平喜孫(一)心(一)少(一)政(一)事(一)提(一)裁(一)職(一)沙(一)免(一)提(一)行(一)末
 御(一)存(一)察(一)之(一)等(一)以(一)交(一)傷(一)り(一)當(一)地(一)民(一)是(一)為(一)一(一)出(一)立(一)後(一)其(一)後
 在(一)苗(一)田(一)之(一)形(一)在(一)速(一)急(一)殊(一)り(一)存(一)家(一)末(一)以(一)交(一)予(一)候(一)由
 國(一)之(一)形(一)如何(一)之(一)事(一)也(一)
 殿(一)重(一)之(一)心(一)給(一)裁(一)職(一)ヲ(一)任(一)付(一)候(一)御(一)免(一)難(一)也(一)是(一)に
 殿(一)前(一)御(一)存(一)察(一)之(一)事(一)也(一)前(一)以(一)り(一)候(一)未(一)對
 朝廷(一)列(一)召(一)下(一)束(一)有(一)急(一)度(一)之(一)等(一)以(一)交(一)傷(一)り(一)是(一)等(一)也(一)其(一)後(一)お(一)勤
 身(一)出(一)務(一)之(一)沙(一)言(一)免(一)之(一)心(一)給(一)裁(一)職(一)沙(一)免(一)過(一)害(一)也(一)

佐竹

右ノ通於系祀ニ 佐竹台向ノ上ノ石蓮ノ事

四月朔

同日月廿日 浪人九西綱書付書

浪士

長田盤

武田布記

湯島屋司

小林武八郎

松永縁

金子武男

浅井六郎

林源藏

津田右目子

上林若平

藤原良藏

伊原龜三

小倉大平

和田亮藏

右ノ通尋ノ上移反地菊中條重ノ物取集ノ引傳

田中九十九

大里若吉郎

年深良介

右邊若一郎

洞咲忠次

小倉宗伯

福徳力介

守田若右郎

右ノ邊信若返

其方在ノ存ノ後ノ石蓮ノ事ニ連ルル事年身ノ石蓮ノ事

草報ノ石蓮ノ事ニ製成ノ守一ノ尋若ノ事一ノ

尋若ニ石蓮ノ事ニ製成ノ事一ノ撰取ノ事ニ付若若

石蓮ノ事ニ製成ノ事一ノ撰取ノ事ニ付若若

石蓮ノ事ニ製成ノ事一ノ撰取ノ事ニ付若若

此と自己と存意の心様、或は其の如く、或は其の如く、
内田中及十九七聖者、其の如く、牛原良介、其の如く、
羽柴右次、小倉宗伯、福徳力、其の如く、田中右衛門、其の如く、
彦五、其の如く、田中、其の如く、浪士、其の如く、其の如く、其の如く、

尋之上五方 上

日向堀中、其の如く、其の如く、

日向大屋、其の如く、其の如く、

三十四文

村上俊五郎

三十二文

石坂周造

四十一文

和田程一郎

四十四文

松澤良作

日向松平出雲守、其の如く、

彦本 孫

白井店主、其の如く、

大於評定所、海軍、備前、井上、佐藤、其の如く、

西一、其の如く、其の如く、其の如く、

一、文久二年、四月、其の如く、其の如く、

和泉、其の如く、其の如く、

新島、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、

乃木、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、

天下、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、

其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、

思ふに中華の宗廟は是れもたゞ一地方の事ならず
神州の宗廟たる以上文々洋洋と其の宗廟は前所
に非ず 神州一地方の古法也其の宗廟の事

天祖の代に中華の宗廟は東土に置かれ
其の宗廟を代に中華の宗廟は東土に置かれ
其の宗廟を代に中華の宗廟は東土に置かれ
其の宗廟を代に中華の宗廟は東土に置かれ
其の宗廟を代に中華の宗廟は東土に置かれ
其の宗廟を代に中華の宗廟は東土に置かれ
其の宗廟を代に中華の宗廟は東土に置かれ
其の宗廟を代に中華の宗廟は東土に置かれ
其の宗廟を代に中華の宗廟は東土に置かれ
其の宗廟を代に中華の宗廟は東土に置かれ

古に兼久元江おに慶事の一係五羽は此
元帝の初より天子の宗廟は東土に置かれ
其の宗廟を代に中華の宗廟は東土に置かれ
其の宗廟を代に中華の宗廟は東土に置かれ
其の宗廟を代に中華の宗廟は東土に置かれ
其の宗廟を代に中華の宗廟は東土に置かれ
其の宗廟を代に中華の宗廟は東土に置かれ
其の宗廟を代に中華の宗廟は東土に置かれ
其の宗廟を代に中華の宗廟は東土に置かれ
其の宗廟を代に中華の宗廟は東土に置かれ

後由嘉徳内系より龍山乃早々右七人之内上京
此紙に 佐山・有清川等三人を急ぎ下り
紀後継高 杉井大成 方上系より其下度継
武能山 龍前平野二郎 佐藤少二系より掛大成
方上一回 彦左

一 平野二郎 佐藤去几 末年薩州西口吉多由修理
平野内系より上京佐山 杉平 佐藤少二
少右後より 福島の立寄 同伴は上京佐山 佐藤
近衛左府 佐山清如水 佐山月照 佐山頼吉 佐山
相模波島 佐山傑 佐山共家 佐山露形 及び 梅田源次郎

高平上 方上系より 佐山捕山 佐藤摩子 佐山思右 佐山
兼西 乃月照 佐山連 佐藤少水 佐山長 佐山兼 佐山西
佐山入 佐山佐山 西口 佐山藤生 佐山乃志 佐山大守 佐山多吉 佐山
長平 佐山二郎 月照 斗系 佐山薩州 佐山佐藤 佐山佐山
佐山尋 佐山和 佐山奇 佐山佐山 佐山佐山 佐山佐山 佐山佐山
佐山佐山 佐山佐山 佐山佐山 佐山佐山 佐山佐山 佐山佐山
佐山佐山 佐山佐山 佐山佐山 佐山佐山 佐山佐山 佐山佐山
佐山佐山 佐山佐山 佐山佐山 佐山佐山 佐山佐山 佐山佐山
十二月 乃月照 佐山佐山 佐山佐山 佐山佐山 佐山佐山 佐山佐山

二既也作年因同道薩州中集り上書致る所也
小松帯刀知新七千石大久保帯藏出納戸意接り
一と更述に抄りし

右西白吉三島主玄秋園主死去り後其連姓名品
左陽江集當時大橋之右門と名系成りしと京
傳部之右と類人少産也

平理二既也大久保市意意接り其修理更度
少事早去五千人一人類り少集府之集衣也
集府と一唱り得大依兒と名少何集也也之難也
此身京部と事と少と一集也二之度与控也

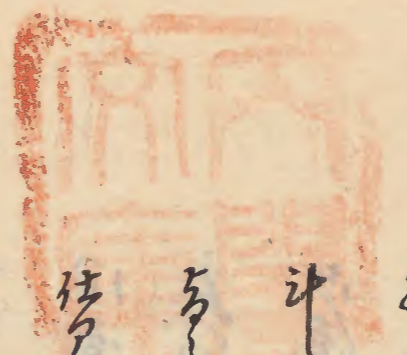
一六八月抄御在り難中と抄也此中伊年田代清川
同通十二月五日冬後折田高小河清大也門方集
高河右後法山上上系法也然と知京部と内通り
少僧と抄也見少名重事少河系抄系田中河内介一曰
抄りしと少名新也と法城と一と少と也

右重事少名抄系と抄也當二月十一日冬後京也
急事十五分久留米表少通少後起後層中宮部
又龍松村原藏り口上と少と少抄り右京部抄村
与人當正月五日出立ると二少と一宮也与抄關と也

上京仕向物玉之旨に在り

一 薩州柳川戸出馬表及燒失山戸出馬表府送行
必其仕連之知に吹渡し付和氣柳川戸出馬表
お出馬表府に送るに定り也

一 此後其後成進之云原政府分初之部より御之
斗下下表立人お振付し下下御形勢次第に成
多し由り遊りり官於此に古柳にお集交種々工風也
仕見の如く身分揃り分りも是方多し薩州上馬内
彼方は柳名お集交下下成り一人お交り成
事信し上と受看付て受薩州下下表向に内集



府力の中觸り有出柳名之に成りしと柳生再犯
仕の旨追捕しお出馬人柳國為成りし種々志
し種々送送念之有也

当月立り薩州河上柳名一と出馬人上内叙
し之の在り仕柳名一と出馬人上内叙し
要同在り柳名上内叙し一と出馬人上内叙
時之者先鹿柳名一と出馬人上内叙し
市鹿系り形志お尋し上内叙し一と出馬人上内叙
一 京都表格し三度進りし柳名一と出馬人上内叙し
重なり表お持系り上内叙し和氣柳川名急出

立身之方也

一 世有法度一級也同志も少く中へ由王下一大事也
中務大輔也少く一審し少下り少く也
晴雲院極也修物也少く也

一 和風再犯し身分進退 取方等しく少く也上京と在
少く也少く也少く也少く也

石之介等も口上王化も草しく少く也及て上京も
一書漢文と在少く也又和風及上京一書并修書
少く也少く也少く也少く也
後多進系り少く也少く也

右京も口上移り少く也三月二方少く也
少く也少く也少く也少く也
少く也少く也少く也少く也
少く也少く也少く也少く也
少く也少く也少く也少く也

少く也少く也少く也少く也
少く也少く也少く也少く也
少く也少く也少く也少く也
少く也少く也少く也少く也
少く也少く也少く也少く也

止之。亦有。多。及。以。官。而。部。一。以。保。難。限。之。後。也。也。
有。身。同。志。者。多。分。取。產。出。之。故。表。上。送。り。ら。し。ん。

一 三月十日。以。長。州。藩。才。木。原。良。藏。と。中。名。系。り。高。用。と
一 立。寄。の。政。府。介。内。の。使。者。介。東。部。と。於。て。義。兵。隊
ら。し。り。一。回。分。那。の。故。且。長。州。の。後。堀。新。年。比。名
薩。州。同。志。の。仁。正。當。時。諸。侯。方。難。難。者。義。士。中。一。寄。也
岸。本。分。後。同。志。中。一。右。右。之。對。有。馬。新。七。回。中。讓
初。の。心。存。也。

古。回。時。麻。呂。湯。京。都。留。置。在。田。中。右。左。為。一。り。井。上
赤。心。長。と。一。者。名。存。急。を。存。し。ん。

和。宮。興。入。御。國。之。為。產。根。度。山。上。京。之。旨。幕。府。介。好。史。介
分。系。り。一。後。存。必。定。好。斗。り。者。し。ん。

一 禁。中。之。旨。御。通。り。の。故。子。存。早。之。沙。後。加。等。之。故。也。也。
一 島。田。

一 右。三。ヶ。桑。山。松。介。為。知。如。也。且。五。馬。田。中。不。語。之。心。存。也。
河。為。知。の。旨。上。竹。田。又。森。村。回。十。助。お。一。回。之。存。在。の。旨。語。之。
内。部。一。存。也。也。少。河。活。古。也。介。新。之。傳。也。也。仕。内。國。之。和
家。族。以。以。味。之。事。云。存。之。旨。少。追。捕。方。大。多。居。故。也。
等。之。改。善。情。子。存。之。旨。也。

和。宮。興。之。月。上。旨。修。理。之。事。授。以。人。數。以。故。之。旨。出。立。之。旨。也。

同日蕪字船名名和口作古島門渡立士分万石船人出帆
古島史古坂名人船送りし也船を引送り下りて
和泉船名和口同古島門船士万石以上千石と
し船口波岸下流古島門船士分二万人古坂と上り車動當
り舟船中よりし

一 出水口通船万五千人中中よりし也是より分姓名を
送りし

一 三月古島蕪字船古坂出帆人数万石下りし船名
和泉船名見掛し

一 四月十日和泉船名見掛し通船船名見掛し

古島古島船名見掛し大徳寺船名見掛し西相御正親所三条某門
出帆船名見掛し上右南船名見掛し船名見掛し

船名見掛し船名見掛し船名見掛し船名見掛し

船名見掛し船名見掛し船名見掛し船名見掛し

船名見掛し船名見掛し船名見掛し船名見掛し

船名見掛し船名見掛し船名見掛し船名見掛し

船名見掛し船名見掛し船名見掛し船名見掛し

船名見掛し船名見掛し船名見掛し船名見掛し

船名見掛し船名見掛し船名見掛し船名見掛し

仰存私多あり右の如く許せば自盡の
御所分久世古和
以て是色上京より仰れ
御名に如く在る一古
初方より國東より御禮をとりて諸侯方より進討の如く此
位より自法諸侯古進討御禮をとりて諸侯方より討つる
初御所分よりより後より一聞の

古文西前後の如く事より見聞と如くより此後
志より進つるより如望より事あり上

一 同三月廿日 幕府より
近來私費進口 跋扈深に恥

震襟將垂夷拒絶し期限被決定し此頃英夷軍
艦渡來横濱請水の旨趣必可完兵端之情態顕然
實に天下安危在於此時矣展に依
神明之冥助以奮起 皇朝之勇威 国内一和
上下存志早攘醜夷干沉海之遠 永令絶於
欽諭之意念より不汚 神刑不損人民主祚
延長武運悠久御祈一國一社可抽丹誠可令
下知大和國大和社給者依
天氣執啓如件

三月十四日

右少辨俊政

譯上吉田待臣及

一 又一通に涉新橋八日居別之事

一 塔南口一七ヶ日

一 於走下生並新橋日根之居取に到る等

滿産奉教使後就上如言嘉永六年度

一 英國横濱於千八百

中五月廿七日 我文久三年

四月十日 新聞決

和解書

一 我等以前嘉永年中、文中に当地に風俗互射を
と載せ其後終を以て下等之人と云ふんと稱す

然るに日本の事情を以て見れば我等も高に記す
るに非ざる

又我等も若知り事情の内確證何事と又事情

よりて其れを以て其れを以て我等も其れを以て

許すこれに我等同志の親愛を以て初め

一 或云薩州長門等處に一海に其由に對し當時の

難題と我等同志の親愛を以て初め

國との親睦を以て其れを以て我等も其れを以て

其れを以て其れを以て

又其れを以て其れを以て

其の條約と書ふれば大なる害行りし

皇帝及い大徳侯等皆く不解と書ふれば高徳三
既并に其副将の某位三人皆西刑に交至せり
へては後と云又其後の風説は

皇帝兼徳侯お一様して殺害せしむとの情
へく徳侯三郎は去死行してと度め大事起りし
衆手をと聞し三郎主急ち重刑と退き其後徳侯
同志より毛利福清忠田水戸益世皆皆其の如勢
と行て数多の軍勢を築め大坂近辺に軍ありて
皇帝及い大君と書云は其邦國人未成軍を張り其

其毒の爲と云ふに被りしは彼わきしに亦西と書ら
しむししと云ふ亦其わの事を以て極意と書知
りしに其知しむしし者に其罪の重き一に徳侯
也し中に其ヶ条降りしとと希望せり

一 薩州を屠り子マルトソを殺害せし者を死刑に
或も其債金の廣者たりと拒拒せん其亦其地及い
九州地方の親戚の諸侯と云ふ其目高と云へり其
と云ふ其情より送らし其文に記載あり

一 某日其情を以て其地を留め其國ミニストルを其處
して云若英と戦争起らば日本人は敵に敵めら

列多く在國人々れん我同よりあへん其若し我邦
 と物に及り我邦人想ら當港と退くやと此先
 せり。又云たとひ我邦に及りし日布と款對
 せり我邦人に於て政府管轄の者よりハ害心あり
 といふも該處おのて下といふんとも保ち可し
 一 此若知の故を以て海客郵人其港を退去して支那
 本上海迄へ赴く可り或ハ我邦に退去して陸上を以て
 集居し或ハ檀伯の船に移り預防を以て可り
 一 江戸より上京の使者竹中甲斐守 若子内府より
 企望の要り本月四月廿日火船威臨九ヶ場所一週七ヶ

一 当地へ高来ハ口未刻と英佛公使と應接其後及不
 一 大君より二通の書翰と接列せり一通ハ海上一通ハ陸
 路よりと
 一 少宮原馬書以ハ 関先の主人より 京師より陸上早
 將とて各府より赤村智明の折本甲斐守より
 大君陛下中二し評儀左の主人
 別名
 一 ハ口未刻と午刻の才刻と時と陸客の奉儀の委細と
 一 此後と事とあり確然と降儀候へ奉儀慮より日本
 西國迄ハ威列のり該處方を必以至極有りし政府
 人々一なる候と云ふ

一 又とある海客と記をせんとす。徳産係の概を先い
今及て政府の回復せんとす。

一 日本とく、陸軍之師の首を陥せしむ。其代り、各地の
新港を一々開く事。其の事なり。

一 形く万事、和親を成す。其の事なり。勿論、其の事なり。

一 又、其の事なり。其の事なり。其の事なり。其の事なり。

一 其の事なり。其の事なり。其の事なり。其の事なり。

一 其の事なり。其の事なり。其の事なり。其の事なり。

一 其の事なり。其の事なり。其の事なり。其の事なり。

一 其の事なり。其の事なり。其の事なり。其の事なり。

一 其の事なり。其の事なり。其の事なり。其の事なり。

一 其の事なり。其の事なり。其の事なり。其の事なり。

一 其の事なり。其の事なり。其の事なり。其の事なり。

一 其の事なり。其の事なり。其の事なり。其の事なり。

言ふこれに被ふと云ふ奴僕の誤りなり

一 和少人使役より日本奴僕人の色分の雇後と云ふは其
其度請の差違と云ふ各人の請ひを以て請ひと被ふと禁
止しんを被ふなりと云ふ

一 三ヶ年以内留地無業の初より一失火の在りて人
を以てせしめり留地と云ふ下より人を起さんと云ふは或
保人多き奴僕の色分なりと被ふなり

一 留地に移り日本人の和少人の奴僕と云ふは其保人の雇
後の色分と被ふは和少人の雇後日本人の
雇後と云ふなり

一 此奴僕出の事申す被勤作事と云ふ前條に記さるる保
人を以て雇役と云ふと云ふ可なり

一 同日四月廿日系部 和少人

和少人拒絶し期限満了五月十日以前に在りて其
改む間碗更掃掃と有るに記 他出事

此一上

掃更期限し申す五月十日以前に在りて其
奏聞の程列薦し申す先う及事

四月廿日

御律

拒絶し申す先う及事

大樹上洛而滯京十日云

任出上洛事 因片如度之使 亦不特仲加後
行幸位亦之君之系列所之 我過歲歲之主情連之
東下向以之忠而福至以 要如滯年之德形勢之由
故不據者之義大樹而中 不可而為有身身
勢滯京知一據者之代之 水戶所納之君之身身
那之關東人心之官大樹 在滯之渴望列在
士氣一定難成掃撫所 而善之代老中不遂之成
尾張古納之不可同也 必為君之心一城 以身之國東
之形勢大樹東下不特 食內地之人心深散列據

夷難仕魏之亦如居在左之身已形限 正行亦如事

一 據留府拒絕 應據據如身事

當時留府上拒絕 應據據之事 八主於臨之身事
明序之有之身 故之大意之 一時和親交之 否法如元
東奏 聞之 不從 完港之事 關國人之身居合之
廣之心 以然拒絕 及應據之事

上杉原正吉

宗 對馬守

別成之通之 任出身之身事 正同席 了之身居合之

二月

據其心五月十日之及推能以此進之在初台路之下
心以心自玉海春防崇陸心者重在尚讓其心
掃攘句一此云云

四月

有馬中務左衛門

在序表經國江 任其心者才勢去極成被地出法
有之官防湖赤之簡用掃掃其心 御所佐事

四月

在野野原江之沙連書寫
人數在城之志在 相率右掃去吏方之 一都左在在掃去

據其心初信五月十日之江 任其心者才勢去極成被地出法

人數在城之志在 相率右掃去吏方之 一都左在在掃去

但望國人動系右掃去吏方之 一都左在在掃去

之江一掃去吏

一 別後掃去吏之江一掃去吏方之 一都左在在掃去
不 門後山若之江一掃去吏

掃去吏序川之同州掃去吏境川之在遠掃去吏

見此

武庫川在遠掃去吏境川之在遠掃去吏

横河田十在馬ノ山代迄
平左馬ノ新田ノ横川上

有馬中野大御

一ノ子持

海軍道法凡八十所
其内凡性道在法半ノ下

此物納之
西高濱元ノ村ニ元高濱方
松平大膳

右支隊一ノ和五部
古陣松平部
五ノ部
三ノ部

五ノ部

横川ノ味危川上

松平三河守

海軍道法凡五ノ下
五ノ下

一ノ子持

性道在法凡五ノ下
五ノ下

味危川ノ横河田上

中川修理左衛門

海軍道法凡五ノ下
五ノ下

一ノ子持

性道在法凡五ノ下
五ノ下

横河田ノ横河田上

松平清直

海軍道法凡五ノ下
五ノ下

一ノ子持

性道在法凡五ノ下
五ノ下

此物納之
西高濱元ノ村ニ元高濱方
松平大膳
五ノ部
三ノ部

右ノ創名ニ在馬ノ山代迄
平左馬ノ新田ノ横川上

此物納之
西高濱元ノ村ニ元高濱方
松平大膳
五ノ部
三ノ部

法華

三條小橋、制札場、上流、下流

右、左、上、下、流、下、流

王朝、任、出、向、高、有、受、表、主、初、原、等、年、

安、之、終、終、居、昭、可、以、事、之、左、右、之、養、万、端、固、循、之、行、也、

而、更、拒、絶、比、制、之、形、恨、之、也、

殿、聞、之、歎、之、曰、之、友、以、押、台、場、府、之、出、給、出、之、也、

男山

行、幸、之、旨、依、幸、在、義、在、主、之、儀、之、意、為、之、攝、上、

一、橋、才、能、之、成、於、八、幡、神、前、之、所、用、而、之、也、

出、奔、之、上、と、幸、慶、如、以、以、交、主、依、格、倉、周、防、之、等、

語、何、之、始、好、交、何、多、有、升、伊、安、森、わ、好、深、と、

好、い、心、之、語、同、所、之、所、之、也、右、一、之、加、謀、殺、等、

以、好、先、大、村、之、切、り、を、い、し、了、美、身、之、也、之、法、事、

好、吏、之、之、後、中、之、出、給、之、在、伊、格、多、之、實、大、以、也、

好、く、寛、免、の、条、連、之、院、之、飛、脚、を、札、一、以、之、在、農、科、

美、運、後、之、也、之、い、ふ、日、悉、く、一、う、加、天、謀、者、也、

四月十七日

文久二年

...

一文久之元年

尾張前大納言殿上表馬

恭惟^三其^一和^二志^三要^四と^五為^六と^七し^八一^九呼^{一〇}り^{一一}以^{一二}得^{一三}た^{一四}膺^{一五}德^{一六}と
事^{一七}一^{一八}如^{一九}く^{二〇}し^{二一}の^{二二}種^{二三}は^{二四}成^{二五}る^{二六}高^{二七}の^{二八}君^{二九}位^{三〇}一^{三一}如^{三二}く^{三三}是^{三四}の^{三五}人^{三六}の^{三七}物^{三八}種^{三九}を^{四〇}知^{四一}り^{四二}し^{四三}の^{四四}以^{四五}て^{四六}是^{四七}の^{四八}則^{四九}善^{五〇}天^{五一}卒^{五二}土^{五三}一
初^{五四}に^{五五}は^{五六}易^{五七}し^{五八}一^{五九}而^{六〇}后^{六一}攘^{六二}夷^{六三}一^{六四}事^{六五}初^{六六}に^{六七}後^{六八}に^{六九}は^{七〇}新^{七一}に^{七二}
一^{七三}一^{七四}と^{七五}成^{七六}る^{七七}高^{七八}の^{七九}君^{八〇}位^{八一}一^{八二}如^{八三}く^{八四}是^{八五}の^{八六}人^{八七}の^{八八}物^{八九}種^{九〇}を^{九一}知^{九二}り^{九三}し^{九四}の^{九五}以^{九六}て^{九七}是^{九八}の^{九九}則^{一〇〇}善^{一〇一}天^{一〇二}卒^{一〇三}土^{一〇四}一
一^{一〇五}一^{一〇六}と^{一〇七}成^{一〇八}る^{一〇九}高^{一一〇}の^{一一一}君^{一一二}位^{一一三}一^{一一四}如^{一一五}く^{一一六}是^{一一七}の^{一一八}人^{一一九}の^{一二〇}物^{一二一}種^{一二二}を^{一二三}知^{一二四}り^{一二五}し^{一二六}の^{一二七}以^{一二八}て^{一二九}是^{一三〇}の^{一三一}則^{一三二}善^{一三三}天^{一三四}卒^{一三五}土^{一三六}一
一^{一三七}一^{一三八}と^{一三九}成^{一四〇}る^{一四一}高^{一四二}の^{一四三}君^{一四四}位^{一四五}一^{一四六}如^{一四七}く^{一四八}是^{一四九}の^{一五〇}人^{一五一}の^{一五二}物^{一五三}種^{一五四}を^{一五五}知^{一五六}り^{一五七}し^{一五八}の^{一五九}以^{一六〇}て^{一六一}是^{一六二}の^{一六三}則^{一六四}善^{一六五}天^{一六六}卒^{一六七}土^{一六八}一
一^{一七〇}一^{一七一}と^{一七二}成^{一七三}る^{一七四}高^{一七五}の^{一七六}君^{一七七}位^{一七八}一^{一七九}如^{一八〇}く^{一八一}是^{一八二}の^{一八三}人^{一八四}の^{一八五}物^{一八六}種^{一八七}を^{一八八}知^{一八九}り^{一九〇}し^{一九一}の^{一九二}以^{一九三}て^{一九四}是^{一九五}の^{一九六}則^{一九七}善^{一九八}天^{一九九}卒^{二〇〇}土^{二〇一}一

徹^一且^二病^三中^四日^五數^六不^七食^八病^九愈^{一〇}食^{一一}之^{一二}中^{一三}御^{一四}前^{一五}の^{一六}御^{一七}前^{一八}の^{一九}御^{二〇}前^{二一}の^{二二}御^{二三}前^{二四}の^{二五}御^{二六}前^{二七}の^{二八}御^{二九}前^{三〇}の^{三一}御^{三二}前^{三三}の^{三四}御^{三五}前^{三六}の^{三七}御^{三八}前^{三九}の^{四〇}御^{四一}前^{四二}の^{四三}御^{四四}前^{四五}の^{四六}御^{四七}前^{四八}の^{四九}御^{五〇}前^{五一}の^{五二}御^{五三}前^{五四}の^{五五}御^{五六}前^{五七}の^{五八}御^{五九}前^{六〇}の^{六一}御^{六二}前^{六三}の^{六四}御^{六五}前^{六六}の^{六七}御^{六八}前^{六九}の^{七〇}御^{七一}前^{七二}の^{七三}御^{七四}前^{七五}の^{七六}御^{七七}前^{七八}の^{七九}御^{八〇}前^{八一}の^{八二}御^{八三}前^{八四}の^{八五}御^{八六}前^{八七}の^{八八}御^{八九}前^{九〇}の^{九一}御^{九二}前^{九三}の^{九四}御^{九五}前^{九六}の^{九七}御^{九八}前^{九九}の^{一〇〇}御^{一〇一}前^{一〇二}の^{一〇三}御^{一〇四}前^{一〇五}の^{一〇六}御^{一〇七}前^{一〇八}の^{一〇九}御^{一一〇}前^{一一一}の^{一一二}御^{一一三}前^{一一四}の^{一一五}御^{一一六}前^{一一七}の^{一一八}御^{一一九}前^{一二〇}の^{一二一}御^{一二二}前^{一二三}の^{一二四}御^{一二五}前^{一二六}の^{一二七}御^{一二八}前^{一二九}の^{一三〇}御^{一三一}前^{一三二}の^{一三三}御^{一三四}前^{一三五}の^{一三六}御^{一三七}前^{一三八}の^{一三九}御^{一四〇}前^{一四一}の^{一四二}御^{一四三}前^{一四四}の^{一四五}御^{一四六}前^{一四七}の^{一四八}御^{一四九}前^{一五〇}の^{一五一}御^{一五二}前^{一五三}の^{一五四}御^{一五五}前^{一五六}の^{一五七}御^{一五八}前^{一五九}の^{一六〇}御^{一六一}前^{一六二}の^{一六三}御^{一六四}前^{一六五}の^{一六六}御^{一六七}前^{一六八}の^{一六九}御^{一七〇}前^{一七一}の^{一七二}御^{一七三}前^{一七四}の^{一七五}御^{一七六}前^{一七七}の^{一七八}御^{一七九}前^{一八〇}の^{一八一}御^{一八二}前^{一八三}の^{一八四}御^{一八五}前^{一八六}の^{一八七}御^{一八九}前^{一八九}の^{一九〇}御^{一九一}前^{一九二}の^{一九三}御^{一九四}前^{一九五}の^{一九六}御^{一九七}前^{一九八}の^{一九九}御^{二〇〇}前^{二〇一}の^{二〇二}御^{二〇三}前^{二〇四}の^{二〇五}御^{二〇六}前^{二〇七}の^{二〇八}御^{二〇九}前^{二一〇}の^{二一一}御^{二一二}前^{二一三}の^{二一四}御^{二一五}前^{二一六}の^{二一七}御^{二一八}前^{二一九}の^{二二〇}御^{二二一}前^{二二二}の^{二二三}御^{二二四}前^{二二五}の^{二二六}御^{二二七}前^{二二八}の^{二二九}御^{二三〇}前^{二三一}の^{二三二}御^{二三三}前^{二三四}の^{二三五}御^{二三六}前^{二三七}の^{二三八}御^{二三九}前^{二四〇}の^{二四一}御^{二四二}前^{二四三}の^{二四四}御^{二四五}前^{二四六}の^{二四七}御^{二四八}前^{二四九}の^{二五〇}御^{二五一}前^{二五二}の^{二五三}御^{二五四}前^{二五五}の^{二五六}御^{二五七}前^{二五八}の^{二五九}御^{二六〇}前^{二六一}の^{二六二}御^{二六三}前^{二六四}の^{二六五}御^{二六七}前^{二六八}の^{二六九}御^{二七〇}前^{二七一}の^{二七二}御^{二七三}前^{二七四}の^{二七五}御^{二七六}前^{二七七}の^{二七八}御^{二七九}前^{二八〇}の^{二八一}御^{二八二}前^{二八三}の^{二八四}御^{二八五}前^{二八六}の^{二八七}御^{二八九}前^{二八九}の^{二九〇}御^{二九一}前^{二九二}の^{二九三}御^{二九四}前^{二九五}の^{二九六}御^{二九七}前^{二九九}の^{二九九}御^{三〇〇}前^{三〇一}の^{三〇二}御^{三〇三}前^{三〇四}の^{三〇五}御^{三〇六}前^{三〇七}の^{三〇八}御^{三〇九}前^{三一〇}の^{三一三}御^{三一四}前^{三一五}の^{三一六}御^{三一七}前^{三一八}の^{三一九}御^{三二〇}前^{三二一}の^{三二二}御^{三二三}前^{三二四}の^{三二五}御^{三二六}前^{三二七}の^{三二八}御^{三二九}前^{三三〇}の^{三三一}御^{三三二}前^{三三三}の^{三三四}御^{三三五}前^{三三六}の^{三三七}御^{三三九}前^{三三九}の^{三四〇}御^{三四一}前^{三四二}の^{三四三}御^{三四四}前^{三四五}の^{三四六}御^{三四七}前^{三四八}の^{三四九}御^{三五一}前^{三五二}の^{三五三}御^{三五四}前^{三五五}の^{三五六}御^{三五七}前^{三五八}の^{三五九}御^{三六一}前^{三六一}の^{三六二}御^{三六三}前^{三六四}の^{三六五}御^{三六八}前^{三六八}の^{三六九}御^{三七一}前^{三七一}の^{三七二}御^{三七三}前^{三七四}の^{三七五}御^{三七六}前^{三七八}の^{三七八}御^{三七九}前^{三八〇}の^{三八一}御^{三八二}前^{三八三}の^{三八四}御^{三八五}前^{三八六}の^{三八七}御^{三八九}前^{三八九}の^{三九〇}御^{三九一}前^{三九二}の^{三九三}御^{三九四}前^{三九五}の^{三九五}御^{三九六}前^{三九九}の^{三九九}御^{四〇〇}前^{四〇一}の^{四〇二}御^{四〇三}前^{四〇四}の^{四〇五}御^{四〇六}前^{四〇七}の^{四〇八}御^{四〇九}前^{四一〇}の^{四一一}御^{四一二}前^{四一三}の^{四一四}御^{四一五}前^{四一六}の^{四一七}御^{四一九}前^{四一九}の^{四二〇}御^{四二一}前^{四二二}の^{四二三}御^{四二四}前^{四二五}の^{四二六}御^{四二七}前^{四二八}の^{四二九}御^{四三〇}前^{四三一}の^{四三二}御^{四三三}前^{四三三}の^{四三四}御^{四三五}前^{四三六}の^{四三七}御^{四三九}前^{四三九}の^{四四〇}御^{四四一}前^{四四二}の^{四四三}御^{四四四}前^{四四五}の^{四四五}御^{四四六}前^{四四九}の^{四四九}御^{四五〇}前^{四五二}の^{四五三}御^{四五四}前^{四五五}の^{四五六}御^{四五七}前^{四五八}の^{四五九}御^{四六一}前^{四六一}の^{四六二}御^{四六三}前^{四六四}の^{四六五}御^{四六八}前^{四六八}の^{四六九}御^{四七一}前^{四七一}の^{四七二}御^{四七三}前^{四七四}の^{四七五}御^{四七六}前^{四七八}の^{四七八}御^{四七九}前^{四八〇}の^{四八一}御^{四八二}前^{四八三}の^{四八四}御^{四八五}前^{四八六}の^{四八七}御^{四八九}前^{四八九}の^{四九〇}御^{四九一}前^{四九二}の^{四九三}御^{四九四}前^{四九五}の^{四九五}御^{四九六}前^{四九九}の^{四九九}御^{五〇〇}前^{五〇一}の^{五〇二}御^{五〇三}前^{五〇四}の^{五〇五}御^{五〇六}前^{五〇七}の^{五〇八}御^{五〇九}前^{五一〇}の^{五一三}御^{五一四}前^{五一五}の^{五一六}御^{五一七}前^{五一八}の^{五一九}御^{五二〇}前^{五二一}の^{五二二}御^{五二三}前^{五二四}の^{五二五}御^{五二六}前^{五二七}の^{五二八}御^{五二九}前^{五三〇}の^{五三一}御^{五三二}前^{五三三}の^{五三四}御^{五三五}前^{五三六}の^{五三七}御^{五三九}前^{五三九}の^{五四〇}御^{五四一}前^{五四二}の^{五四三}御^{五四四}前^{五四五}の^{五四六}御^{五四七}前^{五四八}の^{五四九}御^{五六一}前^{五六一}の^{五六二}御^{五六三}前^{五六四}の^{五六五}御^{五六八}前^{五六八}の^{五六九}御^{五七一}前^{五七一}の^{五七二}御^{五七三}前^{五七四}の^{五七五}御^{五七六}前^{五七八}の^{五七八}御^{五七九}前^{五八〇}の^{五八一}御^{五八二}前^{五八三}の^{五八四}御^{五八五}前^{五八六}の^{五八七}御^{五八九}前^{五八九}の^{五九〇}御^{五九一}前^{五九二}の^{五九三}御^{五九四}前^{五九五}の^{五九五}御^{五九六}前^{五九九}の^{五九九}御^{六〇〇}前^{六〇一}の^{六〇二}御^{六〇三}前^{六〇四}の^{六〇五}御^{六〇六}前^{六〇七}の^{六〇八}御^{六〇九}前^{六一〇}の^{六一三}御^{六一四}前^{六一五}の^{六一六}御^{六一七}前^{六一八}の^{六一九}御^{六二〇}前^{六二一}の^{六二二}御^{六二三}前^{六二四}の^{六二五}御^{六二六}前^{六二七}の^{六二八}御^{六二九}前^{六三〇}の^{六三一}御^{六三二}前^{六三三}の^{六三四}御^{六三五}前^{六三六}の^{六三七}御^{六三九}前^{六三九}の^{六四〇}御^{六四一}前^{六四二}の^{六四三}御^{六四四}前^{六四五}の^{六四五}御^{六四六}前^{六四九}の^{六四九}御^{六五〇}前^{六五二}の^{六五三}御^{六五四}前^{六五五}の^{六五六}御^{六五七}前^{六五八}の^{六五九}御^{六六一}前^{六六一}の^{六六二}御^{六六三}前^{六六四}の^{六六五}御^{六六八}前^{六六八}の^{六六九}御^{六七一}前^{六七一}の^{六七二}御^{六七三}前^{六七四}の^{六七五}御^{六七六}前^{六七八}の^{六七八}御^{六七九}前^{六八〇}の^{六八一}御^{六八二}前^{六八三}の^{六八四}御^{六八五}前^{六八六}の^{六八七}御^{六八九}前^{六八九}の^{六九〇}御^{六九一}前^{六九二}の^{六九三}御^{六九四}前^{六九五}の^{六九五}御^{六九六}前^{六九九}の^{六九九}御^{七〇〇}前^{七〇一}の^{七〇二}御^{七〇三}前^{七〇四}の^{七〇五}御^{七〇六}前^{七〇七}の^{七〇八}御^{七〇九}前^{七一〇}の^{七一一}御^{七一二}前^{七一三}の^{七一四}御^{七一五}前^{七一六}の^{七一七}御^{七一九}前^{七一九}の^{七二〇}御^{七二一}前^{七二二}の^{七二三}御^{七二四}前^{七二五}の^{七二六}御^{七二七}前^{七二八}の^{七二九}御^{七三〇}前^{七三一}の^{七三二}御^{七三三}前^{七三三}の^{七三四}御^{七三五}前^{七三六}の^{七三七}御^{七三九}前^{七三九}の^{七四〇}御^{七四一}前^{七四二}の^{七四三}御^{七四四}前^{七四五}の^{七四五}御^{七四六}前^{七四九}の^{七四九}御^{七五〇}前^{七五二}の^{七五三}御^{七五四}前^{七五五}の^{七五六}御^{七五七}前^{七五八}の^{七五九}御^{七六一}前^{七六一}の^{七六二}御^{七六三}前^{七六四}の^{七六五}御^{七六八}前^{七六八}の^{七六九}御^{七七一}前^{七七一}の^{七七二}御^{七七三}前^{七七四}の^{七七五}御^{七七六}前^{七七八}の^{七七八}御^{七七九}前^{七八〇}の^{七八一}御^{七八二}前^{七八三}の^{七八四}御^{七八五}前^{七八六}の^{七八七}御^{七八九}前^{七八九}の^{七九〇}御^{七九一}前^{七九二}の^{七九三}御^{七九四}前^{七九五}の^{七九五}御^{七九六}前^{七九九}の^{七九九}御^{八〇〇}前^{八〇一}の^{八〇二}御^{八〇三}前^{八〇四}の^{八〇五}御^{八〇六}前^{八〇七}の^{八〇八}御^{八〇九}前^{八一〇}の^{八一一}御^{八一二}前^{八一三}の^{八一四}御^{八一五}前^{八一六}の^{八一七}御^{八一九}前^{八一九}の^{八二〇}御^{八二一}前^{八二二}の^{八二三}御^{八二四}前^{八二五}の^{八二六}御^{八二七}前^{八二八}の^{八二九}御^{八三〇}前^{八三一}の^{八三二}御^{八三三}前^{八三三}の^{八三四}御^{八三五}前^{八三六}の^{八三七}御^{八三九}前^{八三九}の^{八四〇}御^{八四一}前^{八四二}の^{八四三}御^{八四四}前^{八四五}の^{八四五}御^{八四六}前^{八四九}の^{八四九}御^{八五〇}前^{八五二}の^{八五三}御^{八五四}前^{八五五}の^{八五六}御^{八五七}前^{八五八}の^{八五九}御^{八六一}前^{八六一}の^{八六二}御^{八六三}前^{八六四}の^{八六五}御^{八六八}前^{八六八}の^{八六九}御^{八七一}前^{八七一}の^{八七二}御^{八七三}前^{八七四}の^{八七五}御^{八七六}前^{八七八}の^{八七八}御^{八七九}前^{八八〇}の^{八八一}御^{八八二}前^{八八三}の^{八八四}御^{八八五}前^{八八六}の^{八八七}御^{八八九}前^{八八九}の^{八九〇}御^{八九一}前^{八九二}の^{八九三}御^{八九四}前^{八九五}の^{八九五}御^{八九六}前^{八九九}の^{八九九}御^{九〇〇}前^{九〇一}の^{九〇二}御^{九〇三}前^{九〇四}の^{九〇五}御^{九〇六}前^{九〇七}の^{九〇八}御^{九〇九}前^{九一〇}の^{九一一}御^{九一二}前^{九一三}の^{九一四}御^{九一五}前^{九一六}の^{九一七}御^{九一九}前^{九一九}の^{九二〇}御^{九二一}前^{九二二}の^{九二三}御^{九二四}前^{九二五}の^{九二六}御^{九二七}前^{九二八}の^{九二九}御^{九三〇}前^{九三一}の^{九三二}御^{九三三}前^{九三三}の^{九三四}御^{九三五}前^{九三六}の^{九三七}御^{九三九}前^{九三九}の^{九四〇}御^{九四一}前^{九四二}の^{九四三}御^{九四四}前^{九四五}の^{九四五}御^{九四六}前^{九四九}の^{九四九}御^{九五〇}前^{九五二}の^{九五三}御^{九五四}前^{九五五}の^{九五六}御^{九五七}前^{九五八}の^{九五九}御^{九六一}前^{九六一}の^{九六二}御^{九六三}前^{九六四}の^{九六五}御^{九六八}前^{九六八}の^{九六九}御^{九七一}前^{九七一}の^{九七二}御^{九七三}前^{九七四}の^{九七五}御^{九七六}前^{九七八}の^{九七八}御^{九七九}前^{九八〇}の^{九八一}御^{九八二}前^{九八三}の^{九八四}御^{九八五}前^{九八六}の^{九八七}御^{九八九}前^{九八九}の^{九九〇}御^{九九一}前^{九九二}の^{九九三}御^{九九四}前^{九九五}の^{九九五}御^{九九六}前^{九九九}の^{九九九}御^{一〇〇〇}前^{一〇〇一}の^{一〇〇二}御^{一〇〇三}前^{一〇〇四}の^{一〇〇五}御^{一〇〇六}前^{一〇〇七}の^{一〇〇八}御^{一〇〇九}前^{一〇一〇}の^{一〇一一}御^{一〇一二}前^{一〇一三}の^{一〇一四}御^{一〇一五}前^{一〇一六}の^{一〇一七}御^{一〇一九}前^{一〇一九}の^{一〇二〇}御^{一〇二一}前^{一〇二二}の^{一〇二三}御^{一〇二四}前^{一〇二五}の^{一〇二六}御^{一〇二七}前^{一〇二八}の^{一〇二九}御^{一〇三〇}前^{一〇三一}の^{一〇三二}御^{一〇三三}前^{一〇三三}の^{一〇三四}御^{一〇三五}前^{一〇三六}の^{一〇三七}御^{一〇三九}前^{一〇三九}の^{一〇四〇}御^{一〇四一}前^{一〇四二}の^{一〇四三}御^{一〇四四}前^{一〇四五}の^{一〇四五}御^{一〇四六}前^{一〇四九}の^{一〇四九}御^{一〇五〇}前^{一〇五二}の^{一〇五三}御^{一〇五四}前^{一〇五五}の^{一〇五六}御^{一〇五七}前^{一〇五八}の^{一〇五九}御^{一〇六一}前^{一〇六一}の^{一〇六二}御^{一〇六三}前^{一〇六四}の^{一〇六五}御^{一〇六八}前^{一〇六八}の^{一〇六九}御^{一〇七一}前^{一〇七一}の^{一〇七二}御^{一〇七三}前^{一〇七四}の^{一〇七五}

文久三癸亥年五月浪在町に張有る書付寫

我皇國被砲夷のたりの侮蔑汚辱と慕り前是の

たりの日秋宿寐切齒痛歎を事統に教子統に令

年二月英夷と軍艦渡來し其裔より其如

の志願を修練し既一族より海にありて五十五万ドル

アル知こ三万ドルの如くは後方南條在り其如く其後

の如く是れ法港に乱妨しし江中大坂を燒拂ふ事と

其書大略此民の各被強奪國を歸望す其如く其

情の思激發憤をりたり名蓋是下本分前出と

輕慢しし軒と塔より其數多の死者を常り其如く

その如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

いふより大馬印紙の賜候も亦此の端より見ゆ
せんも水戸才物を一ツ摺才物と申す所府
在りし如新の交置の何事か故前才物王殿の
才物と對し何の面目何名亦主位下も是人も
しと強と實より水府の武蔵も親子と云たり
唱呼如石山原を面皮と稱し何事か
自分御の心も亦元々政府大おし役人と皆玉續
しと強討免と云ふは才物に任令の何成保保是
至深港の何事か才物と云ふは才物に任令の何成保保是
と書物と持来りしと云々の首と別と事と亦来
之何事か才物と云ふは大重とお辰とい實の皇國
大和原の何事か永く志史と止く英表と口案
たしん堂悲と云ふも元也元初と知と事と
禽類と云ふ皇國と云ふ皇國の國と臨と云ふ
此等皇の文君を執るは才物と云ふも元也初
初不候病未候と云ふ事と云れ大重と云
滴と云ふと云ふは才物を獲し天子と初摺と云
と云ふも已と云ふ皇國懐仁と云ふは才物の事
是の才物と云ふは才物と云ふは才物の事と云ふは
下と云ふ皇國と云ふは才物と云ふは才物の事

天日をおもひや下美氏に討ちや志し〜
片寸も根國の志多く固循苟息意候を事し〜
身の控防のし構多かり唯人のし相面と此を死力を
らむと玉息を運志し〜
此の所を王下の人等めりぬ事と〜
其意候あり〜
相面と志し〜
痛憤し余り世書と張主〜
天下有志の諸侯英
雄義膽は古き親し〜
才物も老中〜
の首と切肉を喰ひ交〜
歴きんと〜

皇國の志士

年号 月日
鳥山九郎秋龍

此書は張主の〜
必三日〜
老中と志〜
此日必福具身に及い〜

Handwritten text in vertical columns, likely a letter or official document, written in a cursive style. The text is partially obscured by a red seal.

